

# 青森市ヒストリーサークル

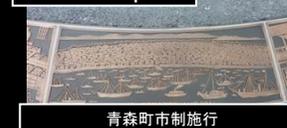
## 青森市ヒストリーサークルとは？

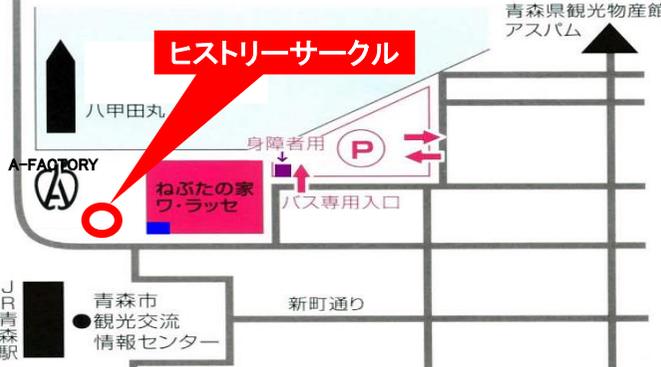
青森市が発展してきた歴史の歩みを「イラストと文字」で表現し銅板に刻み込んだものです。

青森市は、明治31(1898)年に市制施行してから、すでに100年以上が経過しております。(※14参照。)

我々は、先人から受け継いだ「青い空 青い海 青い森」にいだかれた、この郷土を次代に引き継がなければなりません。

この歴史の歩みを振り返り、更なる発展を目指し、豊かで、住みよい、活力ある、魅力あふれる「うれしい街」へと大きく飛躍していきましょう。

|   |  |  |    |   |  |    |  |   |
|---|--|--|----|---|--|----|--|---|
| 1 | <p>2億年以上前</p>  <p>青森大地の誕生(東岳)</p>                               | <p>東岳周辺地域で火山活動の繰り返しにより、青森大地が誕生した。</p>  | 7  | <p>1842年</p>  <p>ねぶた祭の最古の記録</p>                               | <p>江戸時代から文献等の記録にははじめ、現在では300万人の人出でにぎわっている。</p>                           | 13 | <p>1891年</p>  <p>東北本線が開通し青森駅が開設(1894年奥羽線開通)</p>           | <p>東北本線の開通により上野から青森までが26時間5分で接続された。(開業当初は1日1往復)</p>             |
| 2 | <p>BC3600年頃～BC2000年頃</p>  <p>三内丸山(国特別史跡)、小牧野(国史跡)に縄文文化隆盛</p>    | <p>三内丸山遺跡は、今から約5500年前～4000年前の縄文時代の集落跡で、長期間にわたって定住生活が営まれていた。</p>              | 8  | <p>1871年</p>  <p>青森県誕生により青森に県庁が弘前から移転となる</p>                  | <p>明治政府の廃藩置県により青森県が誕生した。当初弘前県としての発令だったが、県の中心地で海に面している青森に移転し、青森県となった。</p> | 14 | <p>1898年</p>  <p>青森町市制施行(人口27,991人)</p>                   | <p>初代市長には、市誕生に東奔西走した青森町長の工藤卓爾が就任した。</p>                         |
| 3 | <p>1460年頃</p>  <p>北畠氏浪岡城の構築(国史跡)</p>                            | <p>浪岡城は浪岡川と正平津川が合流する断崖上に築かれた城郭で、室町時代中期の長祿年間(1457～60)頃に北畠顕義が築城したと伝えられている。</p> | 9  | <p>1873年</p>  <p>青森小学(現長島小学校)、仮校舎にて開校</p>                     | <p>寺町の正覚寺を仮校舎として開校し、草創期の青森県教育に大きく貢献した。</p>                               | 15 | <p>1900年</p>  <p>青森魚菜市場を新舘貝町に開設。後に青森魚貝市場を安方に、魚市場は相馬町に</p> | <p>博労町町民が中心となり、新舘貝町エビス島周辺に開設された。</p>                            |
| 4 | <p>1470年頃</p>  <p>交易による大浜(油川)のにぎわい</p>                        | <p>天然の良港を備えた油川では交易を中心ににぎわいを増していった。</p>                                       | 10 | <p>1876年</p>  <p>明治天皇、東北・北海道を巡幸。青森港から函館を経て横浜港へ帰着(7月20日)</p> | <p>青森小学において天覧授業を行い、本県の教育状況を視察された。(計22名の生徒が出席)</p>                        | 16 | <p>1901年</p>  <p>県立第三中学校(現青森高等学校)開校</p>                 | <p>青森市民待望の中等教育機関が長島に開校した。</p>                                   |
| 5 | <p>1592年</p>  <p>津軽藩(弘前藩)の領地が定まる(1615年野内番所設置、1696年貞船神社建立)</p> | <p>津軽一円を平定した後の、1592年に豊臣秀吉の太閤検地により石高が4万5千石と決定された。</p>                         | 11 | <p>1885年</p>  <p>陸羽街道、羽州街道が国道6号、41号と指定(のち国道4、7号へ)</p>       | <p>現在の国道4号、7号の接点は青森県庁隣りの「青い森公園」前に位置する。</p>                               | 17 | <p>1902年</p>  <p>青森歩兵第5連隊雪中行軍演習・八甲田山中で遭難。(死者199名)</p>   | <p>青森から八甲田山を越えて三本木へ行く途中、悪天候に阻まれ、総勢210名のうち199名の犠牲者を出す惨劇となった。</p> |
| 6 | <p>1625年</p>  <p>青森港開港の許可、後に善知鳥村から青森村と改名 開港奉行 森山弥七郎</p>       | <p>幕府より弘前藩の江戸廻米が許可され、開港奉行に「森山弥七郎」が命じられる。</p>                                 | 12 | <p>1886年</p>  <p>青森大林区署(営林局)が開庁(イラストは明治30年代後半のもの)</p>       | <p>荘厳な建築物で明治30年代後半に旧青森税務署付近に完成したが、同40年に火災で焼失してしまった。</p>                  | 18 | <p>1908年</p>  <p>青函連絡船が就航</p>                           | <p>日本最初のタービン式の機関を備えた比羅夫丸は、それまで7・8時間かかった青森～函館間を4時間で結んだ。</p>      |

|  |   |  |   |  |
|--|---|--|---|--|
| <p>19</p> <p>1909年</p>  <p>横内浄水場竣工・水道事業開始<br/>(1984年日本一おいしい水道水認定)</p>       | <p>水質の悪かった地下水にかわり、全国で13番目の水道施設が完成した。</p>            | <p>26</p> <p>1947年</p>  <p>戦災復興博まつり<br/>(現在のねぶた祭の原型)開催</p>         | <p>空襲後、人々は日々の食料もままならない苦しい生活の中でねぶたを復活させた。</p>                            | <p>33</p> <p>1976年/1980年</p>  <p>青森ねぶた初の海外遠征(フランス ニース)<br/>青森ねぶたが国の重要無形民俗文化財に指定(2001年大英博物館に展示)</p> <p>県内外から毎年300万人以上の人が集まり、日本を代表する祭りとなっている。</p> |
| <p>20</p> <p>1910年</p>  <p>青森市中心部で大火(焼失戸数5,232戸)</p>                        | <p>本県未曾有の大火災で全市一朝にして焦土と化す大惨事だった。</p>                | <p>27</p> <p>1954年</p>  <p>台風で青函連絡船洞爺丸が海難事故(死者1,155名)</p>          | <p>台風の暴風の影響で、函館港外で転覆・沈没した。この惨事は、英国タイタニック号の沈没に次ぐ、世界第二位の海難事故となった。</p>     | <p>34</p> <p>1979年</p>  <p>東北縦貫自動車道青森IC開設<br/>(1987年東北自動車道全線開通)</p> <p>自動車専用道路が整備され、自動車による移動時間が大幅に短縮された。<br/>(青森東京間=全長約680km)</p>               |
| <p>21</p> <p>1926年</p>  <p>市営バス運行開始<br/>(1883年篠原氏による貨客輸送の事業開始)</p>          | <p>篠原善次郎氏よりバス6台と運営資金15,000円が寄附され「青森市営バス」が発足した。</p>  | <p>28</p> <p>1956年</p>  <p>棟方志功ベニス・ビエンナーレ国際版画大賞受賞(1970年文化勲章受賞)</p> | <p>1969年、青森市第1号の名誉市民の称号を贈られた。</p>                                       | <p>35</p> <p>1988年</p>  <p>青函連絡船が廃止され、青函トンネルが供用開始</p> <p>連絡船では3時間50分を要していたが、青函トンネルが開通し、特急電車により約2時間で結ばれた。</p>                                    |
| <p>22</p> <p>1929年</p>  <p>北洋漁業の隆盛、サケマスの漁獲高が最高記録(1955年北洋サケマス漁業協同組合発足)</p>   | <p>同年全国の缶詰製造業者を青森市に集めて、万国缶詰研究会を開催した。</p>            | <p>29</p> <p>1963年</p>  <p>38豪雪 最深積雪135cm<br/>(1945年最深積雪209cm)</p> | <p>20日間にわずか11.4時間という日照時間の短さが加わり、降雪のほとんどが解けずに蓄積することとなり記録的な豪雪となった。</p>    | <p>36</p> <p>1993年</p>  <p>青森公立大学開学</p> <p>経営学、経済学を専門に学ぶ公立の大学として合子沢に開学した。</p>   |
| <p>23</p> <p>1934年</p>  <p>十和田・八甲田地域が国立公園に指定(1954年酸ヶ湯温泉が国民保養温泉地第一号に認定)</p> | <p>十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田山を含む十和田・八甲田地域が十和田国立公園として指定された。</p> | <p>30</p> <p>1964年</p>  <p>青森空港開港(1993年国際線就航)</p>                 | <p>当時の滑走路は1,200m(現在3,000m)。濃霧による欠航対策とし、2007年に計器着陸システム(CAT-Ⅲa)を導入した。</p> | <p>37</p> <p>2010年</p>  <p>東北新幹線新青森駅開業</p> <p>青森-東京間が1本のレールで繋がった。(開業時最短3時間20分)。2011年3月にはE5系「はやぶさ」が導入された。</p>                                   |
| <p>24</p> <p>1943年</p>  <p>ホタテ稚貝300万個陸奥湾に放流(1964年稚苗生産の成功)</p>             | <p>現在ではホタテ養殖は市の基幹産業となっている。</p>                      | <p>31</p> <p>1967年</p>  <p>青函フェリー開通<br/>(1974年沖館地区フェリー基地完成)</p>  | <p>青森港、函館港間にフェリーが開通。1974年にはフェリー基地が完成し、青函交流が活発となる。</p>                   |  <p>青森県観光物産館 アスパム</p> <p>八甲田丸</p> <p>身障者用 P</p> <p>バス専用入口</p> <p>ねぶたの家 W-ラッセ</p> <p>青森市 観光交流情報センター</p> <p>新町通り</p> <p>青森県観光物産館 アスパム</p>       |
| <p>25</p> <p>1945年</p>  <p>第2次世界大戦で青森大空襲(死者700名以上)</p>                    | <p>アメリカ空軍のB29爆撃機の空襲により、市街地が壊滅的な被害を受けた。</p>          | <p>32</p> <p>1972年</p>  <p>青森市中央卸売市場開設</p>                       | <p>生鮮食料品の需要と供給の安定を図るため、中央卸売市場が開設された。(敷地面積96,291㎡)</p>                   |  |